

第1回塔の島地区河川整備に関する検討委員会

議事要旨

【開催概要】

開催日時：平成17年10月3日（月）9：30～12：30

開催場所：ぱるるプラザ京都4F研修室3

【出席者】

委員：芦田委員長、紀平委員、小林委員、志岐委員、高城委員、中川(恵)委員、
中川(一)委員、水野委員、山本委員、川端委員（代理：山崎技監）、佐藤委員、
宮城委員、吉田委員
（欠席：布野委員）

事務局：淀川河川事務所

（山本工事施工管理官、橋本工務一課長、文字係長、田中・栗山係員）

河川環境管理財団（持田研究第5部長、早瀬主任研究員、清時・井上研究員）

一般傍聴者：27名

【審議の概要】

宇治川（塔の島地区）は、治水及び環境の面で検討すべき課題があるとともに、宇治市の地域振興に密接な関係を持っている。今後は、これまで実施されてきた改修工事の総括を行い、河道掘削案を中心として、治水、景観、生態系及び鵜飼等の地域産業の関わりを考慮した案を慎重に検討していくこととなった。なお、住民意見の聴取方法、時期についても、次回審議することとなった。

委員からの主な意見は以下の通りである。

（1）塔の島付近の歴史文化景観について

- ・ 派川(塔の川)側での鵜飼は観光客からのクレームが多く、鵜飼の継続のためには直接宇治川本川へ出られるような整備が必要である。
- ・ 宇治川を挟んで平等院、宇治上神社を回遊する大きな観光ルートが形成されつつあり、宇治川の景観は観光資産として重要になってきている。また、自然環境、景観が良好に維持されていない所では、知識集約型の産業が立地しない。宇治市全体の地域振興と宇治川の自然、景観には密接な関係がある。
- ・ 連綿と培われ積み重ねられた文化としての宇治川が、近年の工事により文明として

の水路に退化したのではないか。景観面から、これまでの河川整備の良かったところ、悪かったところを総括することが必要である。

- ・ 宇治橋から見た上流の景観が最重要と考える。自然の中に島があるような景観が望ましい。
- ・ 景観面からは、宇治川本川の堰堤を現在の位置に移したことは良かったと考えている。(塔の川での)鵜飼の舟が平水時に本川上流まで上がっていける状態と景観を両立しながら整備できるかがポイントである。
- ・ 興聖寺前の護岸工事では、観光シーズンに悪影響を与えるようなやり方がとられていた。河川工事の際には、生態、環境の面から配慮が必要である。

(2) 宇治川の自然生態環境について

- ・ 天ヶ瀬ダムから放流量の目安としての $1500\text{m}^3/\text{s}$ の放流が長期間続くということになれば、流速上昇によるナカセコカワニナへの影響はあまりないと考えられる。それよりも、ナカセコカワニナの稚貝の生育のために浅い場所の確保が必要であり、他の生物にとっても良い環境となることが考えられる。
- ・ 派川(塔の川)側の護岸整備によって、親水性が失われ、子どもが水遊びできる場がなくなってきている。また、現在の整備では小魚の逃げ場がなく、宇治川はブルーギル、ブラックバスの巣となっている。水際は平等院の洲浜のような整備が望ましい。
- ・ 生物にとって、多様な空間が形成される場が好ましいと言われている。治水上やむをえない場合を除いて、川が自分で姿を変えていけるようできるだけ見守ってやることが望ましい。
- ・ 宇治川に残っている良い環境の所については、公園的な整備を出来るだけ控え、川らしい川を目指すべきである。

(3) 宇治川の治水について

- ・ 現在まで積み重ねてきた改修工事が無駄にならないか懸念がある。これまでの掘削計画を活かした早急な対応が望ましい。
- ・ 国土交通省の権限を超えるものについてあまり検討されていない印象がある。治山治水には関係省庁、住民の協力を得ることが必要であり、省庁を超えた検討が求められる。
- ・ 天ヶ瀬ダムの安全性について、黄檗断層の所在も含めて調査、検討すべきである。
- ・ 治水は、塔の島だけでなく宇治川全体の問題であるという認識が必要である。
- ・ 塔の島付近の宇治川河床はあまり低下しておらず、アーモークート(河床の硬質)化がみられる。
- ・ 宇治川は、下流の水位が高いときに大きな流量が流れてきた場合が危険であり、下

流と塔の島付近の両面からの検討が必要である。

(4) 今後の検討等について

- ・ 塔の川では夏期に藻が発生する等、これまでの工事は失敗したという認識をもっている。宇治川の現状認識が必要である。その上で今後の検討を行うべきである。
- ・ 宇治川が市民にとってもっと身近で親しめるものとなるような改修を行うべきである。新河川法の思想のもと、川に恩返しができるような改修を考えていくべきである。
- ・ 宇治川全体の思想を決めねばならないような検討内容であり、現在のスケジュールには無理があるのではないかと。最低でも1年は議論するための時間が必要である。
- ・ 現在、塔の島下流には堆砂がみられ、掘削後もこまめなメンテナンスが必要となることが考えられる。維持管理を含めた検討が必要である。
- ・ 宇治川本川と塔の川の締切堤設置の背景を整理するとともに締切堤撤去の場合の平水、洪水時の水の流れ、河床条件等を整理する。
- ・ 現状で本川の河床掘削を行うと、塔の島との落差が大きく、景観が悪化するので、塔の島をすきとり、本川の掘削量を減らすことが考えられないか。
- ・ 全体的な景観を鳥瞰(ちょうかん)できる写真を提供してほしい。
- ・ 整備案については、工事費の概算を提示してほしい。
- ・ 掘削後の水位低下については、大きな礫を置いたマウンド状のものを横断的に置くことで対策とならないか。せせらぎ状のきれいな流れの復元もあわせて考えたい。

【一般傍聴者からの意見聴取】

一般傍聴者からは3名の発言があった。意見の概要は以下の通りである。

- ・ 本委員会に市民公募の委員を加えるべきだと意見を言ってきたが、無視された形となり、遺憾である。
- ・ 世界遺産と一体となった宇治川の景観を破壊するような河川改修には反対である。
- ・ 川への転落事故や塔の川における藻の繁茂、悪臭、鵜飼の問題等の重大な問題が起きており、これまでの工事を総括し、その反省に立って検討を進めるべきである。淀川水系流域委員会を含め、様々な機会に意見書を提出しているので、淀川河川事務所に資料請求し、市民が何を問題視し、何を求めているかを、委員には是非つかんでほしい。
- ・ 宇治川についての宇治市史の記述や宇治市都市景観形成基本計画、国土交通省「美しい国づくり政策大綱」、景観法を踏まえて慎重に審議してほしい。
- ・ 現場で宇治川に関わっている人々の意見や、住民の負担、受益者の声をしっかり噛みしめて議論してほしい。

- ・ 宇治市の行政委員については、市の意見をまとめ、国に意見を言うという立場を踏まえて、意見を言える人が出席して責任を果たしてほしい。

【その他】

第2回委員会開催は、12月14日（水）午後を予定する。

以上